

## 末広まちづくり推進協議会 会議録 令和3年度第2回

会議概要	
日時	令和3年12月17日(金曜日) 午後6時から午後7時40分まで
場所	末広地区センター 1階 大ホール
出席者	委員 (12名, 正副会長以外は50音順) 高田会長, 今村副会長, 上原委員, 小笠原委員, 桑田委員, 柴田委員, 菅沼委員, 田畑委員, 村田委員, 吉澤委員, 渡瀬委員, 渡辺委員 (欠席者 加藤委員, 田中委員, 中山委員) オブザーバー 旭川市生活支援コーディネーター 長岐氏 事務局 市民生活部地域まちづくり課 今課長, 谷口主査, 吉岡 末広公民館 山崎館長 福祉保険部福祉保険課 小島次長, 柴田主査
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 末広まちづくり推進プログラム 資料2 末広まちづくり推進プログラム「市への要望・地域からの提案」に対する市の考え方 (R3年6月) 末広まちづくり推進プログラムの見直しについて

(補足)「末広まちづくり推進協議会」を以下「協議会」という。

### 議事の内容

#### 1 開会

事務局から, 感染対策を講じて会議を開催する旨説明があった。

## 2 地域共生社会の実現に向けた施策の推進に関する条例等について

福祉保険部福祉保険課から説明があり、内容について確認した。

## 3 末広地域のまちづくりの検討と推進について

### (1) 各補助事業の進捗状況

末広地域で実施している各種事業について、次のとおりそれぞれの実行組織から報告があり、内容について確認した。

#### ア 末広地域交通安全対策事業

末広まちづくり実行委員会の高田会長から、交通安全対策事業の実施状況について報告を受けた。

- ・9月に予定していた秋の交通安全運動に合わせた街頭啓発活動は中止し、各市民委員会・町内会による交通安全のぼり旗の掲示を行った。
- ・交通安全を呼びかける横断幕を購入した。今後の取組で活用していきたい。
- ・1月には、小中学校の始業式に合わせてのぼり旗の掲示を行う。
- ・今後、街頭啓発等で横断幕を活用し、ドライバーに訴えかけたい。また、もう少し数を増やしても良いのではないかと思う。

#### イ 末広地域活動団体 PR 事業

末広まちづくり実行委員会の高田会長から、活動団体 PR 事業の実施状況について報告を受けた。

- ・12月発行の第5号が完成した。
- ・末広地域の小中学校で配布するほか、町内会で回覧を予定している。
- ・この後、3月には第6号の発行を予定している。各団体には、記事を掲載する際には協力を願いたい。

#### ウ 末広ふれあいスポーツクラブ子どもの居場所づくり事業

末広ふれあいスポーツクラブ会長の村田委員から、子どもの居場所づくり事業の実施状況について報告を受けた。

- ・毎月2回、第2、第4金曜日に実施しており、10～15人前後の子どもたちが参加している。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の日程で中止した。
- ・1月には、子どもと保護者を対象とした事業を予定している。

## エ 未広見守りネットワーク担い手連携事業

未広見守りネットワーク実行委員会会長の小笠原委員から、未広見守りネットワーク担い手連携事業の実施状況について報告を受けた。

- ・11月22日に、未広地区見守り研修を開催し、実行委員だけでなく、未広東、南民生委員児童委員協議会にも声をかけ、各団体2名程度の参加をお願いし、19名が参加した。
- ・旭川大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科の齋藤准教授による見守り活動をテーマとした講話のほか、参加者による情報交換を行ったので、その内容を簡単に報告する。
- ・講話の中で、見守る側（能動態）と見守られる側（受動態）の中間に当たる中動態という考え方について説明があり、見守りの新たな視点として双方の距離感を保ち、適度な配慮やバランスが大事になるという話であった。
- ・その後、各団体の活動状況等について、情報交換を行ったので、主な発言内容について報告する。未広地区民生委員児童委員協議会では、見守り活動の回数の集計からはコロナの前後での目立った減り方はしていない。対面に代えて付近の巡回などで対応している。
- ・未広中央地区社会福祉協議会では3町内で見守りが実施されている。見守りの担い手の減少が課題。
- ・未広中央地区女性防火クラブでは、75歳以上の独居あるいは夫婦を対象としたほのぼの防火訪問を行っているが、昨年度は訪問を中止している。
- ・未広東地区市民委員会では、見守り担当者の懇談会を実施。包括支援センター、生活支援コーディネーター、老人クラブなどが参加しながらの交流があった。
- ・未広地区社会福祉協議会では、コロナの前後での集計にほぼ変化はなかったが、見守り対象者の転居や施設入所などの状況変化の報告が増加。ふれあいサロンなどの交流は2年間中止している。
- ・新未広地区老人連合協議会では、多くの事業が中止となる中、単発的にパークゴルフなどを実施。クラブだよりを会員宅へ届け、見守りをするなど、工夫して活動している。
- ・未広東地区民生委員児童委員協議会では、委員全員による公園付近の見回りを実施し、支援につながった。また、お助けはっしん隊の取組を通じた見守りも行われている。
- ・齋藤准教授からは、孤立死を防ぐことは難しいが、それよりも見守りなどのつながりの中で話のできる関係性を築くことが重要であり、その延長線上には孤立死を防ぐということもあるのではないかという話があった。
- ・参加者からは大変意義のある内容との声を聞いており、見守りの必要性を再認識した。

## オ しらさぎ町内会除雪サポーター事業

しらさぎ町内会除雪サポーター委員会の柴田委員から、除雪サポーター事業の実施状況について報告を受けた。

- ・現在 26 名の利用者に対し、17 名のボランティアで活動しており、サポーターの確保が課題となっている。
- ・近隣の事業所の職員の方や仕事の退職を契機にサポーターとしての支援を申し出ていただいたケースもあり、大変ありがたい。
- ・利用者からは好評を得ている。

### (2) 推進プログラムの改訂

事務局から、未広まちづくり推進プログラムの改訂について説明があり、各委員による意見交換を行った。

主な発言は次のとおり。

- ・認知症の徘徊に対応するため、SOSネットワークの取組があり、認知症を知ってもらうため、情報発信している。
- ・公民館を利用しているが、コロナのため自粛となった時期があり、再開したときはうれしかった。現在は、時間を短くし、換気をしながら活動している。
- ・町内会の現状として、高齢者が多くなり、加入者が少なくなっている。例えば合併しなければ継続できない場合もでてくるのではないか。町内会の活性化で参考になる事例があれば示してもらえるとありがたい。
- ・町内会は、防犯灯や清掃活動などいろいろなことを行っている。町内会の規模も様々だが、合併などの話については当事者となる町内会でしっかり話し合う必要がある。

## 4 その他

次回の協議会は、あらためて日程を案内することとなった。

## 5 閉会